

第2回 村岡新駅周辺地区まちづくりコンセプトブック作成有識者会議

議事概要

日時： 2022（令和4年）10月4日（火）9：00～12：00

場所： 藤沢市役所 分庁舎 6階 6-3会議室

出席： <学識経験者・有識者>（◎=会長、敬称略・会長以外五十音順）

◎中島 直人 東京大学大学院工学系研究科 都市工学専攻 准教授
有吉 亮 横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 特任准教授
石山 さつき 都市プランナー／慶應義塾大学環境情報学部 非常勤講師
井庭 崇 慶應義塾大学総合政策学部教授
同大学大学院政策・メディア研究科研究科委員
高松 誠治 スペースシンタックス・ジャパン株式会社 代表取締役

<藤沢市>

三ツ井 幸子 企画政策部参事 企画政策課長
青木 将徳 経済部参事 産業労働課長
額賀 健一 都市整備部参事 都市整備課長

<事務局>

都市整備部 都市整備課
昭和㈱（㈱フロントヤード）

議題： ①コンセプトブックとは
②視点：「ライフスタイル」について

（会議での意見）

- ・村岡地区は、都市というよりは自然の魅力がある地域だと思う。次の世代はそのようなものを求めているのではないか。新駅の予定地が低地で周囲の緑と崖が印象的でアイストッブになる。これを活かさない手はない。
- ・働いている人たちが昼食や夜飲みに出てこられる街というのも、ワークスタイルの魅力のひとつになる。また、研究機関がおもしろいもの（研究）を外に出せるようにするべき。
- ・周辺には農地もあるし、フードトラックやファーマーズマーケットがあっても面白い。自然の中でモノだけでなく様々なことが交換され、季節が感じられるなど常に変化を感じられるイメージ。
- ・つくる活動がメインの工房のようなものが、半分屋内、半分屋外のような場所にあると良い。プライベートすぎず、オープンすぎない場所の方が、創造の偶発性を生む。
- ・東海道本線の駅となると、居住地として開発される引力が強い。それにどう抗うか、ユニークな駅にするのかが勝負だと思う。
- ・ただ広い空間は居心地がよくない。でこぼこしているほうが人がとどまり心地よい。
- ・駅前の立体感、スケール感を活かすこと、集客が目的ではなく日常を過ごす場としての駅、新しい概念をもったマーケットやライブラリー的な要素、小さい変化が常にある場所、などがキーワードとなりそう。